

秋 分 儀 式

I O S 儀式魔術文書 AE2001



THE OFFICIAL ORGAN
OF
I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE AUTUMNAL EQUINOX CEREMONY FOR GROUP WORKING
I O S RITUAL MAGIC WORKING

- 目 次 -

第 1 章 解 説

- 1 司官の配置
- 2 儀式場の準備

第 2 章 神殿聖別儀式

- 1 L B R P / L B R H
- 2 浄化 / 聖別
- 3 神の姿形の設定
- 4 3 原理の臨在
- 5 竜の周行
- 6 神殿設定の宣言

第 3 章 秋分の祝祭

- 1 諸神の召喚
- 2 パスワード交換
- 3 ヘルメスの旅
- 4 聖 餐
- 5 宇宙の主の讃歌

第 4 章 神殿の閉鎖

- 1 浄化 / 聖別
- 2 諸神への賛辞
- 3 竜の逆周行
- 4 3 原理の開放
- 5 L B R P / L B R H

第 5 章 注釈及び覚書

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が比較的簡易な準備で行えることを前提に作成した。従って、《黄金の夜明け》団などで執拗なまでに追求された儀式のシンメトリーや細部の精密さに欠ける部分があるかもしれない。しかし、本儀式においては、豊潤な虚飾より実践的簡潔さを、正確で冗長な記述より、瞬間の真実と実効性を追求した。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は秋分点の前後48時間以内に実施すること。本儀式では、立体天球の北極を取り巻く《大いなる竜》の力を召喚する。従って儀式の最初と最後にハイエロファントは、自己の責任で小五芒星及び小六芒星の追儼儀式を行わねばならない。

なお、「生まれなき者」の儀式の本文に挿入されたヘブル語/アラム語の名前は、初期のユダヤ神秘主義者が用いた<神名>である。

発音については、フォントの関係でヘブル語発音記号を示せず、長音と短音の区別が曖昧である。しかし、原テキストには発音記号はないのだから、推測を交えて器用に発音されたい。VE2001においても強調したが、鍵となるのは震動である。

興味があれば、ヘカロト文献に関するシュワルツ教授の研究論文『古典魔術』(1996年、プリンストン大学出版)を参照されたい。

2001年 秋分儀式の細部

- 1 日 時
2001年9月23日(日) 1800~2100
(スタッフ集合: 1730 受付開始: 1800)
- 2 場 所
関区民センター 3F 視聴覚室
(東京都練馬区北1丁目7番2号 Tel 3928-3046
西部新宿線<武蔵関>駅「南口」下車 徒歩10分)
- 3 参加者
(1) 参加者
I O S 団員及びP Sの希望者
(2) 主な司官予定者
H t : 兄弟 R F H r : 姉妹 A F H g : 兄弟 A C N
K x : 兄弟 V P P E P P t : 兄弟 T P A
- 4 服 装
黒の法衣 (P S 参加者で法衣が準備できない場合は黒の上下)
- 5 参加費用
3000円

1 司官の配置

本儀式に必要な最低の人数は2人である。極論すれば、ハイエロファントとハイエールスがいれば儀式は実行できる。しかし、円滑な儀式の執行を考慮した場合は、それ以上の司官が必要となる。四方位の守護者をヘゲモンらが兼た場合は6~8名、完全な儀式を行う場合は、14名必要である。

最も大切なのは、ハイエロファント(ハイエロファントリア)、ハイエレイア(ハイエールス)及びヘゲモン(ヘゲモーネ)の選定である。

次に述べるのは、《神殿聖別儀式》の司官に充当する人物の理想像である。作業を主催する仲間数が少ない場合は、性格の適合どころか、男女の別さえ該当する司官を集められない場合があるだろう。そのときは適宜、最良の選択をするように心がけなさい。また、司官は固定せずに半年かそこで配置換えをするのが望ましい。この配置換えを定期的に行って、ハイエロファント、ハイエレイア、ヘゲモンの配置が、数年たてば訓練を受けた全員に回るよう配慮する必要がある。

可能ならば、法衣を纏う。通常は、位階の指定色、《黄金の夜明け》では第1団は黒、第2団は白であるが、特殊な神殿を用いる場合はこの限りではない。

《ハイエロファント＝アイテール＝3重の時空神》

男性が望ましいと言われるが、次の条件を満たせば男女どちらでも良い。かれは作業の場における人間及び非・人間双方の霊的要素を制する能力が要求される。それ故に活動的で大胆な性格が要求される。一例として言えば、肉体的に強壮で外向的な人間が相応しいだろう。この司官は儀式の指導的役割を果たし、動き回り、少しも憶することなく指示を出さねばならない。APTOHAGIAは、カルデアの時空神である。

《ハイエレリア＝哲学者の塩＝HRV - VR神》

哲学者の塩を表象するハイエレリアは、エジプトのナトロンの海のごとく、水底に沈殿する白い無機質の結晶をイメージする。

《ヘゲモン＝哲学者の硫黄＝HRV - PA - KRATH神》

哲学者の硫黄を表彰するヘゲモンは、水中で燃える硫黄の炎のごとく、激的な活動能力をイメージする。

《ケルックス＝哲学者の水銀＝RA - HRV - KTHI神》

哲学者の水銀を表彰するケルックスは、伝令神ヘルメス（メルクリウス）と同様に変幻、流転する透明な金属をイメージする。

《東の聖獣の守護者＝ラー神》

東は「調和と癒しの門」である。この性質を体現した人物を当てるべきだ。バランスの取れた人格をもち、他人の痛みに敏感な者が良い。可視の場は、夜明けの太陽ラー神を背負うので、澁刺とした清々しい人物像も求められる。

《南の聖獣の守護者＝アハトール神》

南は「愛と勇気の門」である。この性質を体現した人物を当てるべきだ。理想的には、無鉄砲さとは無縁な寡黙なタイプの勇気を持ち、人種や国籍、信条に偏見を覚えない静かに溢れ出すような愛を持つ人物が良い。火の蛇をうちに宿した人物を探すこと。可視の場は、真昼の太陽アハトール神である。

《西の聖獣の守護者＝トゥーム神》

西は「力の門」及び直観的な「内的知識」への扉である。同時に四大のうち水の間でもあるので、月の力を引き寄せる女性が相応しい。彼女は感受性が強く、想像力に溢れ、視覚化に秀でた人物であるべきだが、支配欲の強い人物は相応しくない。可視の場は、日没の太陽トゥーム神であり、豪華な残光をたなびかせている。

《北の聖獣の守護者＝ケペラ神》

北は大自然と惑星の諸力について、強い共感を覚える人物になるべきだ。年経るごとに死と復活を体現し、忍耐強い人物を選ぶ。可視の場は真夜中の太陽ケペラ神であり、地底の不可視の軌道においてなお力強く躍動している。

《儀典司官＝トート神》

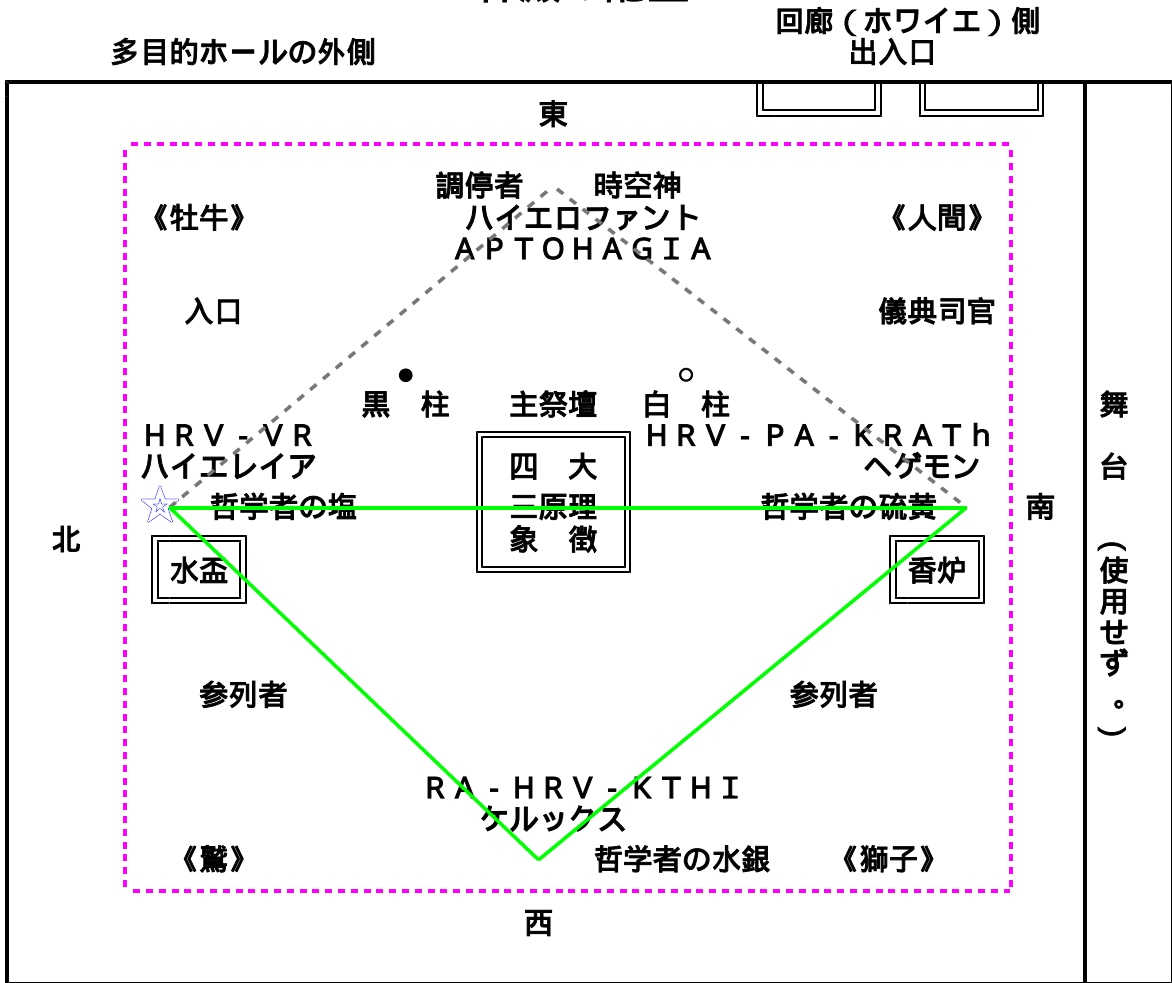
儀式文書を携え、儀式の節目に発言し、不測の事態に当たっては司官及び参加者を誘導する。その役目は儀典官（Protocol）、後見人（Prompter）、先唱者（Precentor）とも呼ばれるが、正式には儀典司官（PROTOMYSTA）である。

2 儀式場の準備

完全な形の神殿を準備することは不可能である。地上の神殿は、アストラル神殿を誘引するための道具立てなので、要点を押さえる形で器材を配置する。次に述べるのは、魔術の神殿において通常配置される主要な器材であるが、総てを揃える必要はない。グループで準備できる範囲で、儀式の場所に適合した器材を準備すれば良い。それが無理な場合は、ただの部屋を何の粉飾もせずに用いる場合もある。

2001年秋分儀式

神殿の配置



注：上記の配置は、可視の場、不可視の場の双方を記載している。

《神殿の配置》

《祭 壇》

理想的には、二重立法祭壇を準備する。《黄金の夜明け》式の黒、セフィロト配色、その他の神殿固有の色調等を用いる。本儀式においては、南北に補助祭壇を設けて、香炉と水杯を置く。

《柱》

ヤキンとボアズの二柱を準備する。

《椅子》

四方位の壁の中央に椅子を置き、司官の座とする。守護者の椅子を南東 - 人間、南西 - 獅子、北西 - 鷲、北東 - 牡牛として配置する。その他の参加者の椅子は、西側に配置する。

椅子には、元素と原理を象徴する色の布をかける。

すなわち、H t : 黄 H r : 青 H g : 赤 K x : 銀 (灰色) P t ほかの参加者 : 黒

《四大旗》

該当する方位の壁に下げる。『エゼキエル書』に現れるケルビムを表象する旗、絵画、彫像、
或いは記号を表示すれば良い。

《小物》

四大を象徴する魔術用具、東 - 剣、南 - 杖、西 - 杯、北 - 塩の皿、等に加え、鈴、キャンドル、香炉や各種魔術武器等を可能な限り準備する。これも代用品を探すことは可能である。

第2章 神殿聖別儀式

1 神殿の設定

参加者は別室で法衣を着用する。(状況により平服で行う場合は、なるべく黒または白系統の模様のないシンプルな服装を用意する。長袖、長パンツ、ロングスカート等のなるべく肉体を覆い隠すものが良い。しかし、奇をてらってはいけない。)

法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

ハイエロファント(Ht)が最初に入場し、次の準備を行う。

小五芒星の追儼儀式

祭壇の西に東を面して立ち、カバラ十字を切る。

「Tu es Regnum et Potentia et Gloria in saecula saeculorum, Amen」

東に行き地の追儼の五芒星を描く。

「Per Adonai Jehova Ex Oriente Lucem Orbis」

南に行き地の追儼の五芒星を描く。

「Per Adonai Sabaoth Ad Majorem Dei Gloriam」

西に行き地の追儼の五芒星を描く。

「Per Adonai Elohim In Hoc Signo Vinces」

北に行き地の追儼の五芒星を描く。

「Per Agla Methon Omnia Cum Sancto Sanctorum」

東に行き円を完成させ、右回りで祭壇の西に戻り、東に面する。

両手を左右に広げ、大天使を活性化させる。

「Prae Raphael, pone Gabriel, ad pares Michael, a sinistra Auriel

Cenventus Sylvorum, Verbum Pythonicum, Mysterium Salamandrae,

Antra Gnomorum」

「Accendat Pentagram circum, splendere Hexagram in columna」

カバラ十字を切る。

「Tu es Regnum et Potentia et Gloria in saecula saeculorum, Amen」

小六芒星の追儼儀式

中央でL V Xのサインを行う。

東に行き土星の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。

「PATER ET MATER UNUS DEUS ARARITA」

南に行き土星の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。

「MATER ET FILIUS UNUS DEUS ARARITA」

西に行き土星の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。

「FILIUS ET FILIA UNUS DEUS ARARITA」

北に行き土星の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。

「FILIA ET PATER UNUS DEUS ARARITA」

中央に戻り、薔薇十字を描く。

「ARARITA ARARITA ARARITA」

トライデントのサイン、引き続き両手を王冠に添え、大地に落とす。

「OMINA IN DUOS DUO IN UNUS UNUS IN NIHIL :

HAEC NEC QUATUOR NEC OMNIA NEC DUO NEC UNUS NEC NIHIL SUNT.」

「GLORIA PATRI ET MATRI ET FILIO ET FILIAE ET SPIRITUI SANCTO EXTERNO ET

SPIRITUI SANCTO INTERNO UT ERAT EST ERIT IN SAECULA SAECULORUM

SEX IN UNO PER NOMEN SEPTEM IN UNO ARARITA.」

L V Xサインを行う。

東の玉座に座り、呼吸と中央の柱で魔法鏡を活性化したのち、神殿の境界までオーラを拡張し、神殿を黄金の光で満たす。

これらが完全に成し遂げられたら、合図の鈴(銅鑼)を鳴らす。

ケルックスは、扉の外側で神殿を守護している。Htの鈴の合図の鈴(銅鑼)で入室を開始する。最初にケルックス(Kx)が入室して左側に立つ。他の司官及び参加者は、この二人の間をくぐり、ヘゲモン(Hg)、ハイエレイア(Hr)、儀典司官(Pt)、東の守護者(EG)、南の守護者(SG)、西の守護者(WG)、北の守護者(NG)、その他の参加者の順で入室する。

それぞれは入室する際にケルックスに剣を突きつけられ、ケルックスの耳にロッジのパスワードを囁かねばならない。ケルックスは正しいパスワードを聞いたなら頷いて、先に行かせる。ケルックスは参加者の人数を確認した後、自分の座につく。

H t は、神殿の東に行き内側を向いて言う。
H t : 「ケルックスよ、全ての者が正しいパスワードで応じたか。」

K x : 「全てパスワードを告げし者なり。神殿の首領よ。」

H t : 「ケルックスよ、参集すべき者は集まりしか。」

K x : 「呼集されし者すべて集いたり。神殿の首領よ。」

東を向いて言う。
H t : 「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ I O S アドヴェンナ・ロッジの兄弟姉妹たちよ。この作業の場に、上位の神殿への接点となる地上の神殿を建立せんがため、われらは集いたり。ロッジの神殿を開設するため兄弟姉妹の力と形を結集せん。」

P t : 「水と火の浄化」

H t : 「ケルックスよ、神殿を水で浄化せよ。」

K x は、北の補助祭壇のゴブレットを取り上げ、東から始めて南、西、北と神殿の四方にゴブレットの塩水を滴らせる。北でこの動作を終了した後、東を通過して、補助祭壇にゴブレットを置き、自分の座に戻った後に、宣言する。
K x : 「神殿を水で浄化した。」

H t : 「引き続き、神殿を火で聖別せよ。」

K x は、南の補助祭壇の香炉を取り上げ、東から始めて南、西、北と神殿の四方を香炉で薫蒸する。北でこの動作を終了した後、東を通過して、補助祭壇に香炉を戻し、自分の座に戻った後に、宣言する。
K x : 「神殿を火で聖別した。」

H t : 「場をもちたる者は、その姿形を纏うべし。」
H t は顔のないアケファロスの姿形をまとう。各司官は自分の《可視の場》に相応するエジプト神の姿形を纏う準備を行う。すなわち背後に視覚化した神の巨大な像を維持する。
各方位の守護者は、対応するケルブの神聖獣の姿形を纏う。各司官の姿形を確認した後、H t はその姿形を空間に焼き付ける。

H t は祭壇の方を向いて、《ヴェールを開く》合図を行う。その後、祭壇の剣を取上げ、東に面する。
H t を除く全員は、着座する。

H t は北に行き、座したH r の前に立ち、剣を垂直に捧げ持ちながら、その柄を額に当て、神聖なるカピルの名前「AXIOKERSOS」（アクシオケルソス）を振動させる。同時に白輝光を天空から引き寄せ、自らのケテルを通してティファレトに引き入れる。
H t は剣の柄を胸の位置に移し、神名「HRV - VR」を白い火文字でティファレトの上に刻印する。そののち、「HRV - VR」を三回振動させる。一回目は自分のなかで、二回目は剣の刃を倒し、H r の胸に当てながら自分とH r の内部で、三回目はH r のなかだけで振動させる。
H t は「Communicantes」と唱えながら自分のティファレトにHRV - VRの薔薇十字のシギルを形成し、「et Diem Sacratissimum」と唱えながらH r のティファレトに投射し、H r の背後の神の像を強く引き寄せ、「Celebrantes Forma Diem」と唱えながらウル＝ヘルの神の姿形をH r に重ね合わせる。

これらの手順は、H t とH r の共同作業である。H r はH t の誘導に従い、一連の伝達を強く視覚化しなさい。両者を結ぶエーテル的なリンクを通じて、H t の魔術的意志が流れ込み、H r の魔術的意志と融合し、強固な姿形を創造するように努力せよ。
同じ形成を、次の順序で行う。

K x : 「AXIOKERSA」（アクシオケルサ）
「RA - HRV - KTHI」

Hg：「AXIEROS」（アクシエロス）
「HRV - PA - KRATH」

Pt及び四聖獣の守護者たちは、その間に自力で神の姿形を纏う。
Htは、東の場に戻る。

Pt：「3原理の臨在」

Htは、Hrを促して言う。
Ht：「ハイレイアよ。塩の象徴を満たすべし。」

Hrは、神殿の東に行き、塩基の棒で大きな「塩」の象徴を輝く青色で描き、次の神名を振動させる（象徴は、右廻りに描く。）。
Hr：「IHVH ALHIM」

さらに、青の象徴の背景がオレンジ色の光彩に包まれた様子を強く視覚化しながら、次のヘブル語の象徴名を振動させる。
Hr：「MLCh」（メラク）

Hrは、棒を保持しながら、南、西、北に行き、この手順を繰り返す。北から東を通過したら、祭壇の西に行き東を向く。

直立し、棒で額の上に小さな塩の象徴を青く描き（対面する者から見て右回りとなる動きで描く。）、次を振動させる。

Hr：「AHIH」（エヘイエー）
棒を頭部の左側の空間（コクマー）に置き、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「IH」（ヤー）
棒を頭部の右側の空間（ビナー）に置き、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「IHVH ALHIM」（ヤー・ヴェー エロヒーム）
棒を左肩（ケセド）に触れ、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「AL」（エール）
棒を右肩（ゲブラー）に触れ、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「ALHIM GBVR」（エロヒーム ギボール）
棒を心臓の上（ティファレト）に触れ、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「IHVH ALVH VDOTH」（ヤー・ヴェー エロアー ヴァ・ダース）
棒を左腰（ネツァク）に触れ、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「IHVH TZBAVTH」（ヤー・ヴェー ツァーバオース）
棒を右腰（ホド）に触れ、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「ALHIM TZBAVTH」（エロヒーム ツァーバオース）
棒を性器（イエソド）に触れ、塩の象徴を描き、次を振動させる。

Hr：「ShDI AL ChI」（シャーディー エール カアーイ）
最後に、東面したまま、セフィロト対応部位を包み込む大きさの塩の象徴を周りに描く。棒を右肩の少し外側に保持し、そこから青い光を視覚化しながら、頭部から、左肩の外側、膝のあたりを通過して、右肩の外側の最初の位置で円を完成させ、そのまま一筆書きの要領で円を2分する水平線を右から左に胸の前を通して描く。

次を振動させ、等身大のセフィロトの木に投影された塩の象徴が青く輝きながら、拡大し、神殿全体に被さる様子を視覚化する。

Hr：「MLCh」

Hrは、北の自分の場に戻り、宣言する。
Hr：「神殿は塩の象徴で満たされたり。」

Htは、Hgを促して言う。
Ht：「ヘゲモンよ。硫黄の象徴を満たすべし。」

Hgは、神殿の東に行き、硫黄基の棒で大きな「硫黄」の象徴を輝く赤色で描き、次の神名を振動させる（象徴は、右廻りに描く。）。
Hg：「IH」

さらに、赤の象徴の背景が緑色の光彩に包まれた様子を強く視覚化しながら、次のヘブル語の象徴名を振動させる。
Hg：「GVPRITHA」（ゴフリサ）

Hgは、棒を保持しながら、南、西、北に行き、この手順を繰り返す。北から東を通過したら、祭壇の西に行き東を向く。

直立し、棒で額の上に小さな硫黄の象徴を赤く描き、次を振動させる。

Hg：「A H I H」

棒を頭部の左側の空間（コクマー）に置き、硫黄の象徴を描き、次を振動させる。

Hg：「I H」

棒を頭部の右側の空間（ビナー）に置き、硫黄の象徴を描き、次を振動させる。

Hg：「I H V H A L H I M」

棒を左肩（ケセド）に触れ、硫黄の象徴を描き、次を振動させる。

Hg：「A L」

棒を右肩（ゲブラー）に触れ、硫黄の象徴を描き、次を振動させる。

Hg：「A L H I M G B V R」

棒を心臓の上（ティファレト）に触れ、硫黄の象徴を描き、次を振動させる。

Hg：「I H V H A L V H V D O T h」

最後に、東面したまま、セフィロトを結びつける硫黄の象徴を描く。棒を頭頂部の上に置き、そこから輝く赤い光を描きながら、左肩の上、顎の前を通過しながら、右肩の上、そして、頭頂部で三角形を完成させる。次に顎から心臓まで一挙に垂直線を引き、左肩から右肩まで水平線を引き、象徴の図形を完成させる。

次を振動させ、等身大のセフィロトの木に投影された硫黄の象徴が赤く輝きながら、拡大し、神殿全体に被さる様子を視覚化する。

Hg：「G V P R I T h A」

Hgは、南の自分の場に戻り、宣言する。

Hg：「神殿は硫黄の象徴で満たされたり。」

Htは、Kxを促して言う。

Ht：「ケルックスよ。水銀の象徴を満たすべし。」

Kxは、神殿の東に行き、水銀基の棒で大きな「水銀」の象徴を輝く銀色で描き、次の神名を振動させる（象徴は、右廻りに描く。）。

Kx：「I H V H A L H I M」

さらに、銀の象徴の背景が淡い黄色の光彩に包まれた様子を強く視覚化しながら、次のヘブル語の象徴名を振動させる。

Kx：「K S P C h I」（ケセフ カイ）

Kxは、棒を保持しながら、南、西、北に行き、この手順を繰り返す。北から東を通過したら、祭壇の西に行き東を向く。

直立し、棒で頭部の左側の空間（コクマー）を差し、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「I H」

棒を頭部の右側の空間（ビナー）に置き、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「I H V H A L H I M」

棒を喉（ダース）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「I H V」（ヤーホー）

棒を左肩（ケセド）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「A L」

棒を右肩（ゲブラー）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「A L H I M G B V R」

棒を心臓の上（ティファレト）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「I H V H A L V H V D O T h」

棒を左腰（ネツァク）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「I H V H T z B A V T h」

棒を右腰（ホド）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「A L H I M T z B A V T h」

棒を性器（イエソド）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「S h D I A L C h I」

棒を膝（マルクト）に触れ、水銀の象徴を描き、次を振動させる。

Kx：「A D N I H A R T z」

最後に、東面したまま、セフィロト対応部位を結ぶ大きな水銀の象徴を描く。

棒を頭部の左側に保持し、そこから青い光を視覚化しながら、喉を通過して、頭部の右側に

半月形を描く。続いて、喉から右肩、心臓、左肩と比較的小さな円を描く。さらに、心臓から腹部を通過して膝まで、垂直線を描き、最後に右腰から左腰までの水平線を描く。

次を振動させ、等身大のセフィロトの木に投影された水銀の象徴が青く輝きながら、拡大し、神殿全体に被さる様子を視覚化する。

K x : 「K S P ChI」

K x は、西の自分の場に戻り、宣言する。

K x : 「神殿は水銀の象徴で満たされたり。」

H t は祭壇の西に行き、東を向いて立つ。剣を垂直に維持する。

H t : 「神秘なる周行を光と闇の小径に起こすべし。」

P t : 「竜の周行。

この神秘なる《竜の周行》により、上空から光の渦が、下方から闇の渦が召喚され、祭壇を縦軸として、神殿全体を光と闇の二重螺旋のなかに包み込む。」

H g が最初に右回りに動き始める。K x、H r が追う。

神殿の東を通過するとき《ホルスのサイン》を円周上になし、H g は1回、K x は2回、H r は3回通過した後、自分の場に戻る。

H t : 「神秘なる周行は完成し、天の竜は降下せり。」

H t : 「われは宣言する。I O S アドヴェンナ・ロッジの神殿は設定された。

第3章 秋分の祝祭

H t : 「われら秋分点を祝祭せん。」

P t : 「諸神の召喚」

H t は、引き続き祭壇の西から東面しつつ、宣言する。

H t : 「ここに《生まれなき》者を召喚せん」

H t : 「われ汝を召喚す、アケファロスよ。

汝、地と天を造りし者よ。

汝、昼と夜を造りし者よ。

汝、闇と光を造りし者よ。

汝は、A P T O H A G I A (アフトファジーア)、
完全者たるわれなり、何人もかつて目にせぬ者なり。

汝は、イア ベズ ペー。

汝は、イア アボフラッツ ヨド。

汝は、正と不正を分かちたる。

汝は、女と男を造りたる。

汝は、種と果実を生みたる。

汝は、人を互いに愛しあい、憎みあうべく造りたる。」

H t : 「われはB G D。汝の密儀、すなわち光と闇の魔術を託されし、汝の予言者なり。

汝、湿と乾をあらわし、すべての生命を造り、育み、滅ぼすものなり。

汝、わが声を聞くべし。われは、無垢なる蒼穹の天使なればなり。

こは、汝の預言者につけられし名前なり。」

H r は北を向いて立ち、北の神殿の壁の彼方に聳え立つ巨大なウル＝ヘル神の立像を視覚化する。意識の焦点を女神の目に向け、精神で神のオーラに接触する。

H r : 「わが声を聞け、H R V - V R !

汝、恐るべき不可視の神よ。

汝、霊の虚の場所に住まう者よ。

汝は、すべてを呑み込む闇なり。

汝は、稲妻より薄き天空の刃なり。

わが声を聞け、

P S M P S M P S S A H S h Q B Q Q H I H V Z M R

K G V N H V G M R K G V N K R K I N I H

(パス マパス マパス サー シーク バクー ハィアー ヴェ・ザムル
カグゥン ハヴ ガムル カグゥン カルキナー)

わが声を聞け、そしてすべての霊をわれに従わしめよ。

されば、すべての蒼穹の霊、エーテルの霊、地の上の霊、地の下の霊、

陸の霊、海の霊、渦巻く風の霊、逆巻く炎の霊、神のあらゆる呪詛と懲罰を、

われに服従せしめん。」

H g は南を向いて立ち、南の神殿の壁の彼方に聳え立つ巨大なハーボクラテス神の立像を視覚化する。意識の焦点を神の目に向け、精神で神のオーラに接触する。

H g : 「わが声を聞け、H R V - P A - K R A T h !

汝、恐るべき不可視の神よ。

汝、霊の虚の場所に住まう者よ。

汝は、未踏の大地なり。

汝は、夢をもたらす者なり。

わが声を聞け、

M D G V B I A L G I V T h I A L Z I V T h A L T N R I A L

H V Z H I H S h I N S h G N S V B I R A V H V

(マドグビエル ギブティエル ジブタル タンリエル

ハ・ヴザィアー シン シグン スヴピラウアー)

わが声を聞け、そしてすべての霊をわれに従わしめよ。

されば、すべての蒼穹の霊、エーテルの霊、地の上の霊、地の下の霊、

陸の霊、海の霊、渦巻く風の霊、逆巻く炎の霊、神のあらゆる呪詛と懲罰を、

われに服従せしめん。」

K xは西を向いて立ち、西の神殿の壁の彼方に聳え立つ巨大なラー＝ホーラクティ神の立像を視覚化する。意識の焦点を女神の目に向け、精神で神のオーラに接触する。

K x：「わが声を聞け、R A - H R V - K T H I !

汝、恐るべき不可視の神よ。

汝、霊の虚の場所に住まう者よ。

汝は、転輪する時空なり。

汝は、過去と未来を調停する翼なり。

わが声を聞け、

H V H B H I H V I H V I V H I A H H A I

(ハヴァー バー ヤーホー ヤーホー ヤーヴェー ヤー ハイアー)

わが声を聞け、そしてすべての霊をわれに従わしめよ。

されば、すべての蒼穹の霊、エーテルの霊、地の上の霊、地の下の霊、陸の霊、海の霊、渦巻く風の霊、逆巻く炎の霊、神のあらゆる呪詛と懲罰を、われに服従せしめん。」

H tは、東に面して両手を広げ、祭壇に時空神を召喚する。

H t：「われ、汝を召喚す、生まれなき者よ！

汝、恐るべき不可視の神よ。

汝、霊の虚の場所に住まう者よ。

汝は、I G K I N T R I Z O (ε γ χ ε ν τ ρ ι ζ ω、エフセントリゾー)

時の深淵にすまう者なり。

汝は、A P T O H A G I A (α υ τ ο φ α ν ε ι α、アフトファジアー)

循環する透明な翼なり。

汝は、I M P V T I O (ε μ φ υ τ ε υ ω、エンフィティオー)

時の果てに立つ者なり。

汝は、生まれなき者にして、宇宙の守護者なり。

わが声を聞け、

I H I H I H I H V I H V I H V I H I I H I I H I

H I H I H I H V H V H V H I H H I H H I H

(ヨーヘー ヨーヘー ヨーヘー ヨーホー ヨーホー ヨーホー

イーハイ イーハイ イーハイ ハイー ハイー ハイー

ヘーヴォー ヘーヴォー ヘーヴォー ハイアー ハイアー ハイアー)

わが声を聞け、そしてすべての霊をわれに従わしめよ。

されば、すべての蒼穹の霊、エーテルの霊、地の上の霊、地の下の霊、陸の霊、海の霊、渦巻く風の霊、逆巻く炎の霊、神のあらゆる呪詛と懲罰を、われに服従せしめん。」

H g：「これは神々の主なり。

これは宇宙の主なり。

これは風の恐れる者なり。

これはその命により声を造りし、万物と無の支配者なり。」

H t：「わが声を聞け、そしてすべての霊をわれに従わしめよ。

されば、すべての蒼穹の霊、エーテルの霊、地の上の霊、地の下の霊、陸の霊、海の霊、渦巻く風の霊、逆巻く炎の霊、神のあらゆる呪詛と懲罰を、われに服従せしめん。」

H r：「われは汝のもとに行かず、汝がわがもとに来たれり。

星と、夜と、稲妻の彩る空間に、

汝がいずこをさまようとも、常にわがもとに帰り来たり。

われは天の空虚に住まえり。

汝がこの座所を訪れしとき、汝はまさに知る。

炎と煙の柱をとおして、汝は上り、また下りぬ。

不死鳥のごとく、翼は焼かれ、また蘇る。

そは汝の真実の名なり。」

H t：「われはかれなり、生まれなき者なり。足元に目をもつ者なり。

強大にして不滅の火なり。

われはかれなり、真実なり。」

われはかれなり、世界に悪のはびこるを厭う者なり。
われはかれなり、稲妻を発し、雷鳴を轟かす。
われはかれなり、地に生命の雨を降らしたり。
われはかれなり、口より火を発する者なり。
われはかれなり、子を作り、光へと顕現する者なり。
われはかれなり、世界の恩寵なり。

VI K T I R GS NVR HGG HGG TVV ZG I Sh Q R T I H
(ヴィー クティル ガス ナヴル ハググ ハググ テヴー ザグ
イシュカルテュー)

こは、わが名前なり。
汝、来たりてわれに従い、すべての霊をわれに服従せしめよ。
されば、すべての蒼穹の霊、エーテルの霊、地の上の霊、地の下の霊、
陸の霊、海の霊、渦巻く風の霊、逆巻く炎の霊、神のあらゆる呪詛と懲罰を、
われに服従せしめん。イアオ、サバオ。かくのごとき言葉なり。」

P t : 「内なる神殿に《三重に偉大なる神》は降臨せり。
秋分は到来せり、宇宙の主を讃えん。」

H g : 「宇宙の主を讃えん。
聖なるかな、汝、硫黄の主よ。
赤き燃える霧よ、来たりて秋分を祝せよ。」

H r : 「宇宙の主を讃えん。
聖なるかな、汝、塩の主よ。
水底に沈み固まるものよ、来たりて秋分を祝せよ。」

K x : 「宇宙の主を讃えん。
聖なるかな、汝、水銀の主よ。
かたちなく流れるものよ、来たりて秋分を祝せよ。」

H t : 「宇宙の主を讃えん。
聖なるかな、汝、万物を生みしものよ。
森羅万象は、汝のなかにあり、
わが右手を天に伸ばせば、そこに汝あり、(右手を上)
わが左手を冥府に伸ばせば、そこにも汝あり、(左手を下)
わが腕を組めば、そこにも汝あり。(腕を組む)
汝のものは、迸る炎の血なり。(南面)
汝のものは、逃げ去る水なり。(西面)
汝のものは、智慧の塩なり。(北面)
わが心臓の光輪は回転せり、来たりて秋分を祝せよ。(東面)」

H g : 「I I I I I I」 - - - H t : 「I V R I S h S h S h T h I I」
(イーヴリーシュ シュシュターイ)
K x : 「A A A A A A」 - - - H t : 「A B G B G G」(アバグ バググ)
H r : 「O O O O O O」 - - - H t : 「O P K Q I T R」(オーパク キトール)
H t : 「I I I I I I A A A A A A O O O O O O」

P t : 「宇宙の主の賛歌は終了せり。聞け、神殿のうからよ。」

H t は祭壇の西に周り、南を向く。

H t : 「秋分は来たり。昼と夜は均衡せり。」

H t : 「全き光に拝礼す。」ホルスのサイン

H g : 「墓所の柱は切り倒されぬ、生と死は等価ならん。」

H t : 「AVE FIRMAMENTUM TERRENUM PER TESSERAM MAGNA・・・」
祭壇に向きなおし、鈴を6回鳴らす。

H t は、北を向く。
H t : 「深き闇に拝礼す。」ハーボクラテスのサイン

H r : 「犬狼星の輝きは去れり、数多の母なる神々は退き、大いなる子の時代が訪れん。」

H t : 「AVE FIRMAMENTUM COELESTEM PER TESSERAM MAGNA・・・」
祭壇に向きなおし、鈴を6回鳴らす。

P t : 「パスワードは交換された。ハーボクラテスの世が始まらん。」

H t は祭壇から離れ、北に行く。
H g、K x の2司官は佇立したまま、神殿を囲む魔法円を青白い炎の円環として視角化し、その魔法円に意識と意志を投射して、炎を激しく燃え盛らせ、神殿内部が完全な結界として存在するように強化せよ。(四大の門はそのまま)
H r は、炎の魔法円の北端に「塩の座」を強く視覚化し、そこに錬金術の塩に象徴される青い門扉(ナオス)を形成する。イメージが流れ込む様子を、意識と意志を総動員して誘導せよ。
神殿の内部に、塩の原理が急速に満ちていく有り様を感じなさい。
H t は、北を向いて跪拝する。H r、H g、K x の3司官は、他の参列者の動きとはかかわりなく、現在の姿勢を維持する。

H t : 「大いなる神の背後に、日輪の最後の残照が消えつつある。」

P t : 「司官を除く参列者は西を向いて目を閉じて下さい。
そして、身体力を抜いてゆっくりと呼吸して下さい。
西の方角に赤い夕日が沈んでいきます。それとともに、周囲は濃い闇に覆われていく。夜空に星はない。月もない。全ての光が消し去られ、人の手になる火もない真の闇があなたを包んでいく。その肉感的な闇の重みを感じなさい。肌に触れる濃密な闇の感触を味わいなさい。
(しばしの沈黙)
あなたは密かな音を聞く。風のような、地鳴りのような、はたまた遠い彼方の雷鳴のような、何者がたてたともつかぬ曖昧で不思議な音が、やわらかに耳朶をうつ。そして、あなたは見えぬはずの目を見開いて、この闇の世界の果てに、大地を取り巻いている巨大で長い胴体をもつ何者かの蠕動を感じとる。その途方もなく巨しく、しなやかな肉の輪は、僅かづつ動いているようだ。不動の大地が、自らを締めつける闇のなかの闇に感応して、人間に捕らえられるか否かの範囲で微動している。不思議な音、あるいは歌声は、この濃い闇のなかで、闇より濃密な何者かの蠢く背後から聞こえてくる。
(しばしの沈黙)
あなたは、ゆっくりと前に進んでいきます。スーブより濃い闇のなかを、半ば泳ぐようにして、進んでいく。そして、ふと気づくのだ。あなたの周りが巨大な肉の山で囲まれていることを。その肉の山は、大陸の背骨に匹敵する山脈の大きさをもち、しかも生きて呼吸していた。世界を取り巻き、世界の境界を定める竜のように。
(しばしの沈黙)
あなたは目を凝らして闇のなかを見通す。すると目によるのではなく、直接的な知覚によって、海のなかの小さな島に巨大な蛇が椰子の幹を取り巻いて休んでいるのを知るだろう。それは混沌の闇そのものが輪となって受肉した竜である。この虫の王の本生は、今も世界に巻きついて、大地と融合しており、そのごく微細な一部分が、大海の真ん中の島に現れ、椰子の幹をきつく締めつけているのだ。
(しばしの沈黙)
その椰子の木には、甘い香りを放つ固い実はならず、しかし、瑞々しい葉の奥に、穏やかな光沢をもつ小さな真珠が隠されていた。蛇は真珠を守るため、威嚇的な呼吸を吐きながら常に蠢いている。あなたは椰子の木の葉の陰から、真珠の封じられた輝きのなかに、哀しい女性の面影を感じ取る。そして、微かな歌声が漏れてくるのを聞く。何としてもこの蛇を眠らせ、真珠のなかの歌う誰かを開放しなければならない。
次の呪文を繰り返して唱えなさい。
外周を取り巻く闇は、自らの尾をくわえた竜である。闇を呑み、闇に溶けよ。
繰り返しなさい。
外周を取り巻く闇は、自らの尾をくわえた竜である。闇を呑み、闇に溶けよ。
繰り返しなさい。
(しばしの沈黙)

あなたの前で蛇は尾をくわえて眠りはじめた。あなたは蛇の巨大な胴体をまたぎ、椰子の葉の間から真珠を取り出す。濃い闇の底から光が浮上するように、真珠が内部に封印された輝きを放ちはじめた。そのやさしい光は、霧を散らす風のように濃密な闇を吹き払い、淀んだ闇の堆積である蛇も溶かし去った。創造を絶する神秘的な光の柱が、真珠をもつあなたを中心にひろがり、明るく照らし出された上空から無数の羽ばたく白いものが舞い降りてくる。光の柱は、急速に闇を押し戻していく。闇が四方に追いやられたあとには、青空が広がり、小さな島は明るさを回復した熱帯の海のざらざらとした照り返しに囲まれた。濃い雲に見まがう闇の輪は水平線の近くまで駆逐され、真昼の日差しに
メタトロン
照らされた島の上空に、羽の王に指揮された天使の合唱団が、妙なる主の讃歌を響かせながら降臨してくる。

(しばしの沈黙)

あなたの手のなかで、真珠は水滴に姿を変え、掌の熱を感じたように、一握りの蒸気となって天に登りはじめた。天使たちは、真珠の昇天を出迎えるように布陣し、白い翼を羽ばたかせる。水蒸気は、神気に変容し、あなたの見守るなか、臆気な裸体の女神の姿をとる。それは大いなる女神のなかの女神、イシスの眩い肉体と白い尊顔であった。西の空半分を占める無数の天使を背後に従え、その優美な足指は海面に触れ、やさしい曲線美の脚を見上げると、豊かな腰は白い雲の衣に隠れ、遙か上空の美しい釣り鐘状の胸乳のさらに彼方に、日輪を冠とした女神の横顔が仰ぎ見えた。

(しばしの沈黙)

あなたが女神を仰ぎ見たのは、ほんの束の間のことで、水蒸気に映る陽炎のように女神の姿は溶けて消えた。そして、水平線の彼方まで退いた闇が、再び忍びよりはじめる。天使の大集団も、翼の渦を巻くように舞い踊りながら天に戻っていく。

しかし、今度は世界の半分を闇の下に納めたところで、その浸食は止まった。世界の光と闇の均衡は、再び保たれた。闇のなかに光があるように、光のなかにも闇がある。真珠のなかに隠れていた輝きが女神イシスの《光》ならば、地上を這う濃い雲も女神イシスの《闇》なのだ。あなたは光に焦がれるだけでなく、闇をも友としなくてはならぬ。真珠を守る蛇の島は徐々に遠ざかった。あなたは闇と光がほどよく溶け合った黄昏のなかを通過しながら、夜を呼吸している。その穏やかな冷たさを味わい。老成のもたらす夜の知恵を聞きながら、あなたの肉体が真昼の活動から夕べの思慮にと調律されていくのを感じなさい。また、刈り取るときから、次の収穫のために思いめぐらすときに変化したことを。

(しばしの沈黙・・・)

静かに目を開けて下さい。イメージの旅は終わりました。」

H t : 「真珠の歌が終わり、銀がもたらされた。」

H t は立つ。H r、H g、K x の3司官は、内側を向く。参列者は着座する。

H t は説法を行う。

(秋分点の意味：タットワの潮が、切り替わる。

黄金の夜明けの図版の意味：ゲブラーの真紅、ゲドゥラーの青、イエソドの紫の三角形
剣を持つ騎乗の戦神と笏を持つ王座の神、剣と笏を併せ持ちコクマーの棒となし、ピナーの杯で受けること。3原理と4元素の融和。等々・・・)

P t : 「秋分点は通過せり。・・・聖餐をともにせん。」

(注：特別な儀式を行う場合は、この部分で行う。繋ぎ方は以下のとおり。

P t の「秋分点は通過せり。・・・をせんがため、・・・の儀式が執り行われる。」

・・・《儀式実施》・・・

P t の「・・・儀式は、終了せり、聖餐をともにせん。」)

H t は祭壇の東に立ち、西に面して、薔薇を取り上げ香を嗅ぐ。

H t : 「Flutus」

H t は香炉に手をかざす。

H t : 「Ignis」

H t は杯のワインを飲む。

H t : 「Aqua」

H t はパンに塩をまぶして食う。

H t : 「Terra」

H t は両手を脇に垂らし宣言する。

H t : 「F.I.A.T.」(エフ・アイ・エイ・ティー)

H tは紙に入れた硫黄の粒を香炉に振りかける。
H t：「E.S.T.」(イー・エス・ティー)
H tは、薔薇の花びらをむしり、ワインに浸す。
H t：「E.S.T.O.」(イー・エス・ティー・オー)
パンの上に手をかざす。
H t：「E.R.I.T.」(イー・アール・アイ・ティー)

H tは、H rをまねく。H rは、祭壇の西に行きH tと面する。
H t：「ハイレイアよ。われ汝を招く。」
H tはH rの手を取り赤灯に手をかざさせる。
H t：「われとともに、この《硫黄の火》を心臓より進る鮮血として感じるべし。」

H tはパンを塩にまぶして与え、
H t：「われとともに、この《智慧の塩》を食すべし」

H tは盃を取って与え、
H t：「されば最後に、《生ける水》の流転する表象として、
われとともに、この葡萄酒を飲むべし」

H rは退き、H gが進み出る。以後、同じプロセスで、H g、K xに四大の象徴たる聖餐を与え、その後に四聖獣の守護者、参列者と進み、全員が聖餐を受け終わったら、P tが進み出て最後に食す。H tは祭壇の東から宣言する。

H t：「われらが食せしものにより、われらに光と闇を分かち与えたまえ。
宇宙の主を讃えん。」

P t：「参列者は、立って東の方角を向いて下さい。
ハイレオファントの動作に従い、同じ言葉で礼拝して下さい。」

H t：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！」	(ホルスのサイン)
AM：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！」	(ホルスのサイン)
H t：「聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！」	(ホルスのサインを継続)
AM：「聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！」	(ホルスのサインを継続)
H t：「聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！」	(ホルスのサインを継続)
AM：「聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！」	(ホルスのサインを継続)
H t：「光と闇の主よ！」	(ハーポクラテスのサイン)
AM：「光と闇の主よ！」	(ハーポクラテスのサイン)

H r、H g、K xは、内側を向き立ち、参列者は着座する。

第4章 神殿の閉鎖

H t : 「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ。I O S アドヴェンナ・ロッジの兄弟姉妹たちよ。ロッジの神殿を閉鎖するわれを助けよ。」

P t : 「水と火の浄化」

H t : 「ケルックスよ、神殿を水で浄化せよ。」

K x が最初と同じ手順で浄化し、告げる。

K x : 「神殿を水で浄化した。」

H t : 「引き続き、神殿を火で聖別せよ。」

K x が最初と同じ手順で聖別し、告げる。

K x : 「神殿を火で聖別した。」

P t : 「諸神への賛辞」

H t は、祭壇の西側に回り込み、東に面する。

H t : 「宇宙を領したまう《三重に偉大なる神》に感謝せん。
A P T O H A G I A よ、時空の彼方に戻りたまえ。」

H g は、南を向く。

H g : 「未来の地平を領したまう《童体の神》に感謝せん。
無垢なる幼子、H R V - P A - K R A T h よ、霊の虚の場所に戻りたまえ。」

H r は、北を向く。

H r : 「闇の始源を領したまう《畏るべき翼》に感謝せん。
古き者、H R V - V R よ、霊の虚の場所に戻りたまえ。」

K x は、西を向く。

K x : 「均衡を制したまう《地平線の神》に感謝せん。
二つの貌をもつ者、R A - H R V - K T H I よ、霊の虚の場所に戻りたまえ。」

H t : 「神秘なる逆周行を光と闇の小径に起こすべし。」

P t : 「竜の逆周行。

この神秘なる《竜の逆周行》により、祭壇を軸として上下に絡み合った光と闇の二重螺旋が分離し、光の渦は上方に、闇の渦は下方に去って行く。」

H g が最初に左回りに動き始める。K x、H r が追う。

神殿の東を通過するとき《ホルスのサイン》を円周上になし、H g は1回、K x は2回、H r は3回通過した後、自分の場に戻る。

H t : 「神秘なる逆周行は完成し、天の竜は上昇せり。されば《宇宙の主》を讃えん。」

P t : 「参列者は、立って東の方角を向いて下さい。

ハイエロファントの動作に従い、同じ言葉で礼拝して下さい。」

H t : 「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！」 (ホルスのサイン)

A M : 「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！」 (ホルスのサイン)

H t : 「聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！」 (ホルスのサインを継続)

A M : 「聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！」 (ホルスのサインを継続)

H t : 「聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！」 (ホルスのサインを継続)

A M : 「聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！」 (ホルスのサインを継続)

H t : 「光と闇の主よ！」 (ハーポクラテスのサイン)

A M : 「光と闇の主よ！」 (ハーポクラテスのサイン)

H t は、東の場に戻る。H r、H g、K x は、内側を向き立ち、参列者は着座する。

P t : 「原理の引き潮」

H t は、H r を促して言う。

H t : 「ハイエレアよ。塩の象徴を引かすべし。」

H r は、神殿の東に行き、塩基の棒で大きな「塩」の象徴を輝く青色で描き、次の神名を振動させる（象徴は、左廻りに描く。）。

H r : 「I H V H A L H I M」

さらに、青の象徴の背景がオレンジ色の光彩に包まれた様子を強く視覚化しながら、次のヘブル語の象徴名を振動させる。

H r : 「M L C h」(メラク)

H r は、棒を保持しながら、北、西、南に行き、この手順を繰り返す。南から東を通過したら、自分の場に行き宣言する。

H r : 「引潮に乗り、智慧の塩は神殿から流れ出る。Fluo Sal Sapientiae !
哲学者の塩は、去れり。」

H t は、H g を促して言う。

H t : 「ヘゲモンよ。硫黄の象徴を引かすべし。」

H g は、神殿の東に行き、硫黄基の棒で大きな「硫黄」の象徴を輝く赤色で描き、次の神名を振動させる（象徴は、左廻りに描く。）。

H g : 「I H」

さらに、赤の象徴の背景が緑色の光彩に包まれた様子を強く視覚化しながら、次のヘブル語の象徴名を振動させる。

H g : 「G V P R I T h A」(ゴフリサ)

H g は、棒を保持しながら、北、西、南に行き、この手順を繰り返す。南から東を通過したら、自分の場に行き宣言する。

H g : 「引潮に乗り、硫黄の火は神殿から流れ出る。Fluo Sulphureus Ignis !
哲学者の硫黄は、去れり。」

H t は、K x を促して言う。

H t : 「ケルックスよ。水銀の象徴を引かすべし。」

K x は、神殿の東に行き、水銀基の棒で大きな「水銀」の象徴を輝く銀色で描き、次の神名を振動させる（象徴は、左廻りに描く。）。

K x : 「I H V H A L H I M」

さらに、銀の象徴の背景が淡い黄色の光彩に包まれた様子を強く視覚化しながら、次のヘブル語の象徴名を振動させる。

K x : 「K S P C h I」(ケセフ カイ)

K x は、棒を保持しながら、北、西、南に行き、この手順を繰り返す。南から東を通過したら、自分の場に行き宣言する。

K x : 「引潮に乗り、生ける水は神殿から流れ出る。Fluo Aqua Vitae !
哲学者の水銀は、去れり。」

《しばしの沈黙》

H t : 「この儀式に参集されし、すべての神々、大天使、天使、長老たち、
この儀式に言及されし、すべての惑星霊、ダイモン、四大の生き物たちよ。
汝らの助力に感謝せん。平安のうちに元の場所に戻られよ。
I H S h V H と I H V S h H の御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

H t は祭壇に向き直る。

P t : 「参加者は、祭壇の方を向いてお立ち下さい。」
全員が祭壇を向く。

H t : 「われは宣言する。地上の神殿は閉鎖せり。」

H t は《ヴェールを閉じる》サインを行う。そのサインが手を合わせて静止した瞬間、唱和する。

A M : 「地上の神殿は閉鎖せり。アーメン。」

P t : 「参加者退出」

S t が先頭に逆周行を開始する。H r、D d、H g、四聖獣の守護者、東の参加者、南の参加者、西の参加者、北の参加者の順でその後を追いつ作業場を出る。最後に残ったH tは、小六芒星及び小五芒星の追儼儀式を行い、最後に退出する。

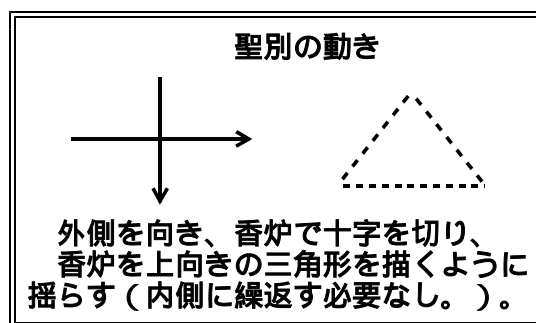
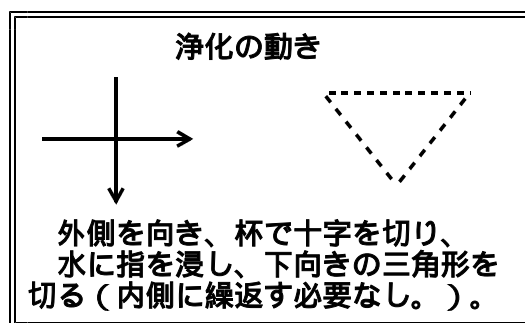
もし、神殿の魔術的磁気作用が残存しているようであれば、所要の大儀礼を用いて、完全に追儼する。

法衣を着用している場合は沈黙のうちに着替える。

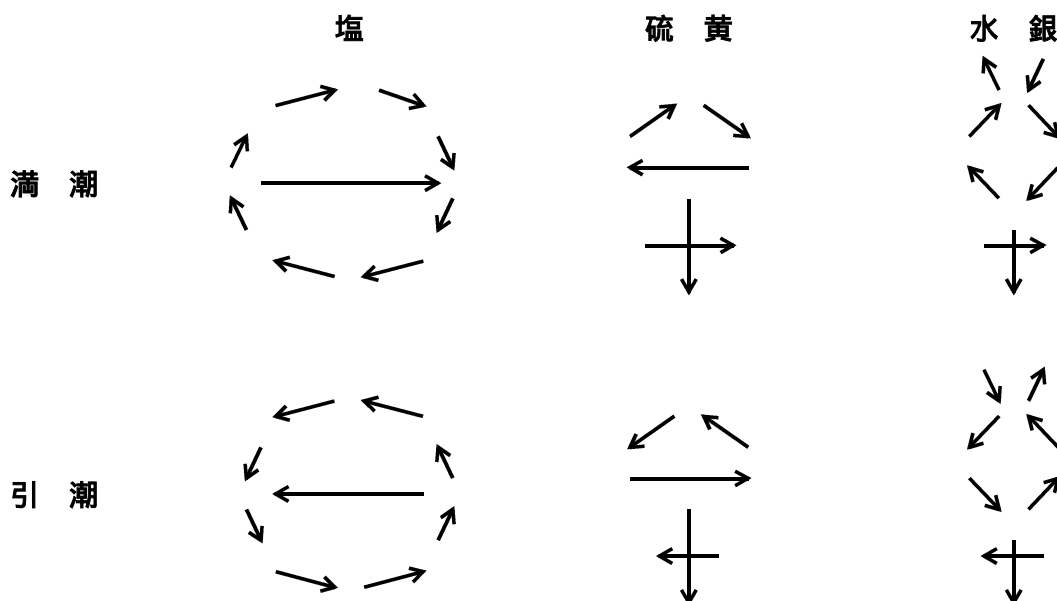
普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、談笑し、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

第5章 注釈及び覚書

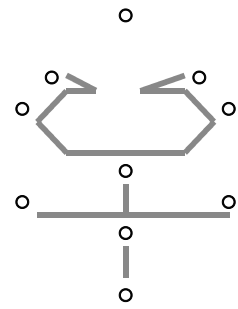
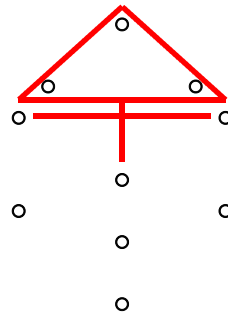
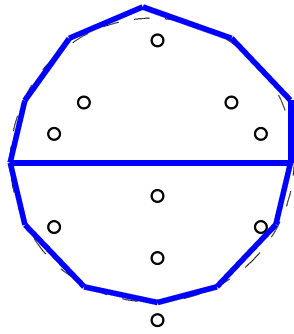
1 浄化と聖別



2 象徴のサインの書き方



人体に投影
された象徴



3 神の姿形

APTOHAGIA神



HRV - VR神



RA - HRV - KTHI神



HRV - PA - KRATH神



4 神名のシギル

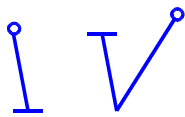
HRV - VR



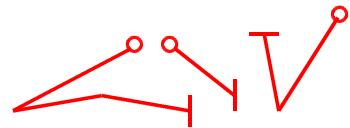
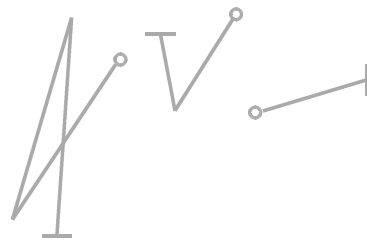
RA - HRV - KTHI



HRV - PA - KRATH



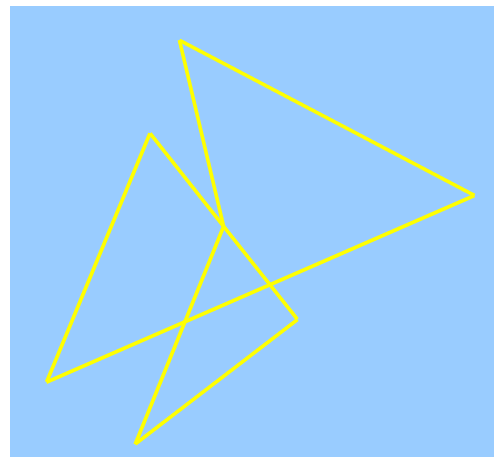
注：複数単語のシギルは、
右から左に並べる。



APTOHAGIA



このシギルは、中心から中心に描く。



VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MMI

秋分儀式

Copyrights(C) All rights reserved I O S 2001
2001年9月1日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の会員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。